

活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	緑のおもしろ講座 千葉		
タイトル	先人の思いが残る星久喜の春を歩く		
実施日時	平成31年3月23日（土）10時～12時		
実施場所	千葉市星久喜 都市緑化植物園周辺		
受講者	13名	F I C会員他スタッフ	7名

活動の内容

「春を歩く」予定が、前日と10度以上の気温差のある真冬日、凍える寒さの中の観察会となりました。千葉市都市緑化植物園を起点に、その周辺を散策するコースです。

植物園から近隣に広がっているコゴメイヌノフグリの様子、クリーム色の丸い形のアブラチャンの花、ちょうど目の高さで観察できたハンノキの雄花、

雌花をみていただきました。また、休耕田では、閉鎖花と開放花を一緒につくるホトケノザの観察、タンポポの花の構造とともに在来と、外来、その中間種を同時に観察することができました。またツクシとスギナについても観察していただきました。

縄文の時代から人々が住んでいたこの地域では、コースの途中にいくつもの古の人々の営みの跡を見ることができます。

大宮の庚申塔は地元の方の話より昔からこの場所にあり道標の役割もありました。庚申講の説明、庚申塔に彫られている青面金剛、日月、三猿、ニワトリ、邪鬼、シヨケラ（人間）の説明、月之木貝塚ではイボキサゴの謎、月之木貝塚の昔の姿、三上神社では二つの村の融合のため三上神社を建立した話、五名神名地神塔の祭り方と背景について説明しました。余談で神社にある大金神塔、疱瘡塔の話と偶然ですが2019年の庚申の日が3月24日、春の社日が3月22日と、両日に挟まれた23日に

説明できたことの不思議など暦を話したところ参加の皆様には興味をもっていただきました。



三上神社、春日造の拝殿



「左なりた道」と道標の役割もあった庚申塔



ホトケノザ、閉鎖花と、開放花